



思い出の奇しき出会い

ここ何年か「欧米の文化と歴史Ⅰ」という授業で、ドイツ後期ゴシック期の彫刻家リーメンスユナイダーの作品を扱っている。

かつて在外研究の折、各地に残る彼の作品を見てまわるうちに、いつしかその虜になってしまった。東西ドイツ統一直後、ベルリンのボーデ美術館に彼の重要な作品があることを知り出かけて行ったのだが、改修工事のため閉館して見て見ることは出来なかった。

四年前の夏、二度目の在外研究では、ベルリンとミュンヘンに二ヶ月ほど滞在した。ベルリンではリーメンスユナイダーの件の作品に是非とも出会いたかったからである。あれから13年。今度こそはと期待し、気温40度を超えるあの記録的な猛暑の中、ボーデ美術館を目指した。だがそこは相変わらず閉館中だったのだ。

呆然として踵を返し、オペラハウス隣の野外

レストランでビールをしこたまあおった。

ベルリンからミュンヘンに移動する途中、二日間ほどフランクフルトに滞在した。メイン川沿いにある美術館の幾つかを見ておきたかったのだ。その一つ、リーベークハウス美術館に立ち寄った。閑散とした展示室に入ると、片隅に置かれた展示品に一瞬目を奪われた。引き寄せられるように近づいてみると、何とそれこそ、正に我が目指すリーメンスユナイダーの作品だったのだ。なぜここに！係員に尋ねると、ボーデ美術館の改修工事が終るまで預かっているのだという。何という奇遇。何という幸運。

これこそ名作「マグダラのマリア祭壇」の台座を飾る四人の福音史家の彫像なのだ。本来はミュンナーシュタットの教会にあったのだが、数奇な運命をたどって今、ベルリンとミュンヘンに別れて存在する。僕が奇しき出会いを果たしたように、この祭壇も作者の意図した当初の姿に戻して、一つ教会に納める事は出来ないものなのか。それとも「罪の女」の因果の故に、当分はそれもかなわぬ事なのであろうか。

広報委員 杉田 達雄（理工学部教授）

編集室

はじめまして。田中紘太郎・前編集長の後を受け、4月に着任いたしました。宜しくお願ひ致します。

初編集の今号では、いくつかが新しい試みをはじめました。まず表紙を「ひと」の写真に替えました。「この人誰？」と気にとめてもらい、小誌を手にとって欲しい。そんな願いからです。次号以降も「旬の人」を登場させる予定です。

誌面では、シリーズで『大学全人時代』をとりあげました。大学がそれぞれ「魅力」を競い合うなかで、本学の取り組みをその都度角度を変えて取材します。

学生記者が取材・編集する大学広報誌

Hakumon

Chuo
ちゅうおう

2007

夏季号

2007年(平成19年)7月1日発行 No.202

発行 中央大学広報委員会
〒192-0393
東京都八王子市東中野742-1

〈編集担当〉
『Hakumonちゅうおう』編集室
☎042-674-2146

印刷 泰成印刷株式会社
〒130-0026
東京都墨田区両国3-1-12
☎03-3631-8141

また、新連載企画『OB・OGの職場探訪』と『ボランテアと私』がスタートしました。両企画では、社会との接点に触れながら、さまざまな職業観、人生観を紹介。同時に、学生記者が社会参加を前に、取材を通して出会いと体験を重ねる良い機会になれば、と願っています。

連載『サンダル履き気まま旅』はアジア諸国を中心にした旅行紀行です。楽しみにしてください。

37年前の卒業生を母校は温かく迎えてくださいました。その温情に感謝しつつ、新聞記者として培ったすべてを編集に生かし、親しまれ、読まれる『Hakumonちゅうおう』を目指します。

(入学企画課 伊藤博)